

## 第19回医学情報サービス研究大会参加記

森川 治美

今年も、病院、大学等という枠を超えた、医学図書館を愛する者たちのつどいである、標記大会が開催された。サッカー・ワールドカップ2002の余韻の残る静岡の地が、今回の開催地として選ばれた。2002年7月6日(土)、7日(日)の両日、静岡県立大学短期大学部の講堂には、学生のための席も設けられ、図書館関係者だけでなく、外部の方にも公開するスタイル

の大会となった。プログラム抄録が、ホームページで公開された影響もあろうか、240人を超える参加者であったと聞いた。

玄関には七夕飾りが置かれ、大会成功を祈る実行委員の方々の短冊があった。その片隅に、自分の健康と、楽しい時間を過ごせるようにと書き、笹の葉陰にそっと結んだ。

「新世紀の医学情報サービス」という大会テーマのもと、盛りだくさんの内容が終始スムーズに進行された。

継続教育、特別講演と一般演題21題が行われ、活発な質問も交された。また、2題のポスターセッションが、両日にわたって参加者を立ち止まらせた。一般演題の発表には、EBM 関連の演題が多く、現在の医学図書館界の中心的話題であることを感じた。

恒例となった、昼食を囲んだラウンドテーブル・ディスカッションは、大学の教室を利用し、



ちよっぴり学生気分になることができた。個人的な質問にも丁寧に答えていただき、また、いろいろな状況を身近に聞くことができて、私には充実した時間となった。

今回、初めて企画されたエディターズ・ミーティング(第1回編集者意見交換会)は、朝食を共にしながらのものであった。論文投稿する者、その編集を担当する者としてだけではなく、多くの図書館員が共通して確認すべき内容もあり、学術論文の生産に関する情報、知識を習得する場として、今後はもっと門戸を開き、さらに定着させていただきたい。

また、医学図書館界の動向を知るうえで、企業の方からの出展は、たいへん重要だと感じている。今回も12企業のブースが並び、参加者の興味を引いていた。

2日間をフルに使った、充実したプログラムであり、田引淳子実行委員長ならびに静岡大会実行委員の方々の、2年間におよぶ継続した努力の賜物と心から敬意を表したい。